

ヒグマに象徴される「北海道の自然」についての基本姿勢と具体的政策に関する公開質問書

1【自然環境対策】北海道の森林や野生動物などの自然環境は貴重な財産ですが、その保全や活用について、どのような考えと基本政策をお持ちでしょうか。

北海道の豊かな自然環境は、道民の生命や暮らしを育むとともに、農林水産業を支える重要な基盤であり、優れた観光資源でもある貴重な財産です。

道の環境基本条例や生物の多様性の保全等に関する条例などを踏まえ、世界各国が取組を進めているSDGsに掲げられている「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさも守ろう」という目標達成に向けて、持続可能な開発のための海洋・海洋資源の保全や利用、陸域生態系の保護や回復、持続可能な利用の推進・森林の経営、生物多様性の損失阻止などに産学官一体となって取り組んでいく必要があると考えます。

2【ヒグマ観】北海道にとってヒグマはどのような存在であるとお考えでしょうか。

陸上の哺乳類で国内最大のヒグマは、北海道の自然を代表する野生動物であり広い生息地を必要とするといわれています。しかし、人とヒグマのあつれきによる農業被害や生活が脅かされるなどの問題が深刻化しており、適切にヒグマの管理を行っていく必要があると考えます。

3【ヒグマ対策】ヒグマによる被害とその防止策、調査研究について、現状をどう見ておられますか。また、問題解決に何が最も重要であるとお考えでしょうか。

人を恐れないうわゆる問題グマが頻繁に出没し農業被害を引き起こしているといわれており、農地への侵入を防止する電気柵の設置促進や、生ゴミの適切な処理を徹底する必要があります。

ドローンやICTを活用した多面的な調査研究などによりヒグマの生息実態の的確な把握に努め、保護管理を進めていく必要があると考えます。

4【人材配置】ヒグマをはじめとする野生動物の保護管理は、道内の3大学に専門講座が開設されるなど人材育成面では進んできています。北海道庁として野生動物の保護管理を現場で担う専門員を道内各地に配置するお考えはありますか。

採用や多様な研修機会を通じて、野生鳥獣に関する専門的知識を持った人材の育成・確保に努め、円滑な保護管理を推進していきたいと考えます。

5【苫東コリドー】勇払原野（苫小牧市など）は道央と日高地方をつなぐ位置にあり、防風林や河畔林がヒグマなど野生動物のコリドー（移動回廊）として遺伝子交流に役立っています。このコリドー保全についてどうお考えでしょうか。また、この地区にはIR（総合リゾート）計画がありますが、それとの関連はいかがでしょうか。

人と自然が共生した社会を実現していくために、引き続き自然公園や国有林などの保全、野生動物の移動経路となる緑の回廊の設定や都市の緑化の推進などに取り組むことが重要です。

IRを誘致する場合にも、自然環境や生態系を適切に維持していくため、周辺地域の環境保全に十分配慮して進めていく必要があると考えます。